



# 男女共同参画推進機構 Newsletter

男女共同参画推進本部・ダイバーシティ研究環境支援本部・キャリア開発支援本部

## 2018年度（平成30年度）男女共同参画推進活動

2018年度は、昨年度に引き続き大学の独自運営により「男女共同参画推進本部」「ダイバーシティ研究環境支援本部」「キャリア開発支援本部」の3つの本部が、互いに連携しながら活動を行いました。男女共同参画の推進方策に関する企画・立案・実施や啓発活動を担う「男女共同参画推進本部」では、「発達障害」をテーマとした公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催や、関西圏の女子大学との連携・交流を広げるための「異分野交流会」を共催しました。生涯にわたるワーク・ライフ・バランスの実現をサポートする「ダイバーシティ研究環境支援本部」では、共助支援事業として女性研究者の仕事と生活の両立支援や学生・教職員の子育て支援、女性の健康相談に取り組み、研究活動支援事業として理工農医保健系女性研究者に対する研究支援を行いました。また、大学院生、ポストドクター、単位取得満期退学者に対するキャリア支援を行う「キャリア開発支援本部」では、産学協働イノベーション人材育成協議会との連携、種々の交流会、セミナーを通じて就職支援を行いました。

年度末には、「奈良女子大学の女性研究者支援～ダイバーシティ推進の成果が築く未来～」と題したシンポジウムを開催しました。3つの本部のこれまでの取組みを振り返るとともに、時代の流れに即したこれからの男女共同参画推進に必要な課題を整理し、国立女子大学としての使命を再確認しました。

大学では、2017年度に「女性教員の大学の政策・方針決定過程への参画推進に関するアクションプラン」の策定、および「女性活躍推進法に基づく奈良女子大学行動計画」の改定を行いました。その中で、女性教員比率を38%とすることが目標となっていますが、2018年度の実績は36.2%であり、少しずつですが着実に目標に向けて増加しています。今後、目標を達成するためには、研究環境に関する量的、質的な支援がさらに重要となってきます。また、次年度以降に向けては、「病児・病後児保育を含む研究環境の整備」や「地域の企業や自治体との連携の強化」が大きな課題となっています。

これまで本機構は学長の強いリーダーシップのもとに活動してまいりましたが、来年度は男女共同参画担当副学長が配置されることが決まっています。大学としての男女共同参画推進における本機構の役割の重要性を改めて認識するとともに、本機構の活動をさらにパワーアップしていく所存です。

今後も学内の関連部署との連携により部局横断的な事業の実施をめざしてまいりますので、引き続き本機構の活動につきましてご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

奈良女子大学創立百周年記念イベント

**奈良女子大学の女性研究者支援** 参加費  
無料

～ダイバーシティ推進の成果が築く未来～

開催日時	平成31年 <b>3月1日（金）</b> 13:30～16:45	13:30 開会の辞 奈良女子大学 今岡善樹学長
	会場	奈良女子大学 記念館講堂 (奈良市北魚屋西町)
プログラム		～ 休 憩 ～
	15:15 「本学女性教員の活躍と研究支援」 男女共同参画推進機構男女共同参画推進本部 安田恵子本部長	15:15 「本学における研究支援」 男女共同参画推進機構ダイバーシティ研究環境支援本部 香本真江本部長
	15:40 「本学における研究支援」 男女共同参画推進機構ダイバーシティ研究環境支援本部 香本真江本部長	16:05 「本学におけるキャリア形成支援」 男女共同参画推進機構キャリア開発支援本部 藤原郁恵特任教授
	16:30 講 評 山村康子氏	16:30 講 評 山村康子氏
	16:40 閉会の辞 奈良女子大学 藤原素子副学長	16:40 閉会の辞 奈良女子大学 藤原素子副学長
	主催：奈良女子大学 男女共同参画推進機構	

託児無料  
要申込  
締切  
2月22日(金)

お問い合わせ・託児お申込み先

奈良女子大学 男女共同参画推進機構  
ダイバーシティ研究環境支援本部  
☎ 0742-20-3344  
✉ shien@cc.nara-wu.ac.jp  
<http://gepo.nara-wu.ac.jp/>

2019年3月

奈良女子大学男女共同参画推進機構長

藤原 素子

## 男女共同参画推進本部

男女共同参画推進のため、意識啓発事業として公開講座「知る・学ぶ・伝えるequality」の開催、関西圏女子大学と連携したプロジェクトである異分野交流会の実施、地域自治体の男女共同参画への取組みに対する貢献などを行っています。

### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」

「知る・学ぶ・伝えるequality」講座は社会連携センターが行う地域貢献事業の一つとして、男女共同参画推進機構が2010年から展開している事業である。「equality・平等」に関するさまざまなテーマで男女共同参画の根幹である「多様な個性の尊重」を身近な問題として捉え、学び、広めることを目的とし公開講座を開催してきた。今年度は「発達障害」をテーマとして、2回の公開講座を開講した。

#### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第1回 発達障害を笑GUY（しょうがい）に

【日時・場所】 2018年11月16日（金）15：30～17：00 Z306教室  
【講師】 東田 愛子氏（介護福祉士、アスパラガスの会・はたらっく）  
【参加者】 56名

発達障害とは、自閉症スペクトラム障害や注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害などの総称で、脳の発達の遅れが日常生活に支障をきたす状態のことである。演者は発達障害を抱えており、幼いころから感覚過敏に悩み、人と何かが違うという違和感を持っていた。そのため、人間関係や自分自身に悩んだ時期が長く続いたが、介護の仕事に就き、さらに同じ悩みを持つ仲間との関わりを通して、人と違う自分をネガティブにではなくポジティブに捉え直すことに成功した。

できること・できないことを自身で把握し、必要ならば人の助けを受けながらも、失敗を恐れず、成功体験を積み重ねてゆくことで、自己肯定感が育つ。発達障害を障害としてではなく、「笑GUY」としてポジティブに捉える。発達障害を一括りにするのではなく、現れ方は人それぞれなので、その人をよく見て、何を必要としているのか考える。人が人を助けるといふ点では通常の間人関係と何ら変わらないのである。演者の今までの平坦でない道のりから発達障害の方々の現状を窺い知ることができ、演者の前向きな姿勢は参加者に勇気を与えるものであった。講演の後、活発な質疑応答があり、「発達障害」を知る有意義な機会となった。



#### 地域貢献事業「知る・学ぶ・伝えるequality」連続講座第2回 発達障害は・・・障害？ 個性？～個性として捉えるために周りができること～

【日時・場所】 2019年1月31日（木）15：30～17：00 S228教室  
【講師】 金山 好美氏（奈良こども研究所Active代表・心理士）  
【参加者】 39名

大人は誰でも我が子に「優しく育てて欲しい」、「自分のことは自分でして欲しい」などと願う。ところが、発達障害を抱える子供は、往々にして暴力や無気力など、その逆の行動をするように見える。しかし、なぜそのような問題行動を起こすのだろうか？例えば、何か新しいことを始めるときに暴言を吐く子がいる。大人は、「そんなに嫌なら止めなさい！」と言ってしまいがちである。ところが、暴言を吐くなどの問題行動も学習の結果である。その行動を起こす文脈やその子にとってのメリットを正しく理解できれば、やりたいことができない

環境から、やりたいことを応援する環境へと変えることができる。つまり、失敗しそうな点を予め述べたり、お手本を示したりして、子供の生活がより豊かになるよう支援することが可能になる（ソーシャルスキルトレーニング）。我々は、つい、どういう大人になって欲しいかという基準でのみ子供を評価しがちであるが、評価基準を変えたり、本人の「今」を認めることで、子供がより伸びることがある。奈良こども研究所Activeにおける取組みから発達障害の方々への対応について学ぶことができた。講演の後にも演者を囲んで質疑応答や意見交換が行われ、参加者の関心の高さが窺えた。



## 関西圏女子大学の連携推進活動

女性研究者の環境整備や研究力向上と次代の優秀な女性研究者の育成のため、関西圏女子大学間連携による女性研究者共同研究支援を目指して、2014年に関西圏の5女子大学有志によりワーキンググループが結成された。現在は奈良女子大学、武庫川女子大学、神戸松蔭女子学院大学の3大学メンバーが、年に数回のワーキンググループ会議を開催し、女性研究者の共同研究の推進、協働による研究環境の整備・充実、育児・介護共同利用システムなどを目指して活動している。

2018年度は以下の6回のワーキンググループ会議が開催された。

### 2018年度 ワーキンググループ会議開催状況

	開催日	会場	主な議題
第32回	6月15日	武庫川女子大学	第6回異分野交流会開催の打ち合わせ
第33回	8月4日	神戸松蔭女子学院大学	第6回異分野交流会について（開催とその反省）
第34回	9月29日	武庫川女子大学	第6回異分野交流会について（異分野交流共同研究シーズ発掘支援）・第7回異分野交流会の開催について
第35回	12月11日	武庫川女子大学	第7回異分野交流会開催の打ち合わせ
第36回	2月3日	武庫川女子大学	第7回異分野交流会について（開催とその反省）
第37回	3月15日	武庫川女子大学	第7回異分野交流会について（異分野交流共同研究シーズ発掘支援）・第8回異分野交流会開催について

## 異分野交流会の開催

女性研究者の研究が発展しにくい原因のひとつとして、出産・育児・介護などのライフイベントのために他の研究者と交流する時間がなく、共同研究が実施しにくいことが挙げられる。共同研究萌芽を促進するための試みとして、2016年2月に「異分野キックオフ交流会」を武庫川女子大学で開催した。以降年2回のペースで異分野交流会を開催し、今年度は第6回異分野交流会を神戸松蔭女子学院大学、第7回異分野交流会を武庫川女子大学において開催した。異分野の研究者が集い研究成果に対して、それぞれの立場から意見を交換することにより、思いがけない共同研究の萌芽が期待できる。なお、第8回異分野交流会から年1回の開催になる。

### ◆第6回異分野交流会

日時：2018年8月4日（土）12:00～16:00

会場：神戸松蔭女子学院大学 松蔭大学会館3階  
地域コミュニティルーム

テーマ：「情報」「健康」「地域」「文化」 参加者：24名

#### 【プログラム】

12:00 開会

会場大学からのご挨拶

神戸松蔭女子学院大学 待田昌二学長

12:10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）

13:30 フリートーク（発表者への質問など）

14:15 グループワーク

15:30 グループワークのまとめと講評

16:00 閉会

#### 【発表者】

足立悠（奈良女子大学）

「対話の長さに影響を与える言語表現の特性について」

泉祐花・神夏磯晴香（神戸松蔭女子学院大学）

「アニメを用いた文法導入の可能性」

井上裕之（神戸松蔭女子学院大学）

「神戸タータンから考えるファッションにおける地域性」

大高千明（奈良女子大学）

「武庫川女子大学オープンカレッジ講座参加者を対象とした運動機能に関する調査報告ー調整力テストについてー」

大谷光一（武庫川女子大学）

「SNSによる自撮り文化の醸成」

北浦舞（武庫川女子大学）

「武庫川女子大学オープンカレッジ講座参加者を対象とした運動機能に関する調査報告ーロコモ度テストについてー」

### ◆第7回異分野交流会

日時：2019年2月3日（日）12:00～16:10

会場：武庫川女子大学 中央キャンパス  
文学2号館3階 L2-32室

テーマ：「つくる」「みつかる」「ささえる」 参加者：23名

#### 【プログラム】

12:00 開会

会場大学からのご挨拶

武庫川女子大学 瀬口和義学長

12:10 研究発表（パワーポイントによる口頭発表）

13:45 フリートーク（発表者への質問など）

14:15 グループワーク

15:30 グループワークのまとめと講評

16:10 閉会

#### 【発表者】

金井浩美（奈良女子大学）

「マンガローブと塩の関係～マンガローブにNa<sup>+</sup>は必要か～」

黒木邦彦（神戸松蔭女子学院大学）

「日本語音便データベースの作成およびウェブ公開」

三井禎子（武庫川女子大学）

「天然染料の耐光性に関する研究 ～ケルセチンとクルクミン」

青山雅人（奈良女子大学）

「ゴナドトロピン非依存段階における新規卵胞成長機構」

片山恵（武庫川女子大学）

「青年期成人の排便行動の実体調査」

丸山果織（神戸松蔭女子学院大学）

「新たな書教育に向けての一考察 ～戦後日本の書家の試みをアプローチとして～」

男女共同参画推進本部の活動についての問い合わせ先

Tel 0742-20-3204 e-mail somusomu@jimu.nara-wu.ac.jp

## ダイバーシティ研究環境支援本部

(旧女性研究者共助支援事業本部・女性研究者養成システム改革推進本部)

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」（2006～2008年度）、「女性研究者養成システム改革加速」（2010～2014年度）において培った女性のライフイベントに配慮した教育研究環境の整備や女性の研究力強化支援を採択期間終了後も大学の重要な事業と位置付け、女性研究者共助支援事業本部と女性研究者養成システム改革推進本部において更なる整備と拡充を図ってきました。2016年4月、教育研究活動のダイバーシティ化を推進するため、2本部を発展的に統合して「ダイバーシティ研究環境支援本部」を設置しました。新本部では、共助支援及び理工農医保健系女性研究者に対する研究活動支援に加えて、ダイバーシティ化を目指して新しい支援の取り組みも展開しています。

### 教育研究支援員制度

2006年度より、出産・育児・介護等に関わる女性教員の研究活動の支援のために、主に博士後期課程修了者を教育研究支援員として採用する「教育研究支援員制度」を開始した。2016年度より、妻が他の研究機関（大学及び大学共同利用機関、文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの、高等専門学校）における常勤の研究者である男性教員も本制度を利用できるようになった。支援者と被支援者双方のキャリア形成、キャリア復帰支援・再チャレンジ支援に寄与するシステムである。

#### 2018年度教育研究支援員制度利用状況

	5月～9月	10月～3月
利用者数	7名	8名
支援員延人数	28名	

### 子育て支援システム

「公共の子育て支援でカバーしきれないところに支援を！」の声に応じて、「ならっこネット」を運営し12年目を迎えた。今年度は、専任（共助サポーター）による手厚い支援を行う「ならっこコース」と、利用頻度が少ない方が気軽に利用できる、専任のいない「プチならっこコース」を利用者が選択できるようにし、より使いやすくなった。ならっこコースでは、Webシステム「Webならっこ」が利用でき効率よく依頼できる。安全で安心な支援を実施するため、保険に加入し、本部スタッフがサポートしている。学生の利用には「育児奨学金制度」が適用されるが、今年度より適用範囲が休日や長期休暇中にまで拡大され、より手厚い支援となった。PDには「ポストドクター育児支援金制度」が整備されている。

2019年1月末現在、「ならっこネット」登録利用者数は53名（支援される子どもの数77名）、登録サポーター数は60名である。1月末までの本年度の「ならっこネット」依頼件数は144件で、うち106件が実施された。

「ならっこイベント」は、学会や講演会などでの託児を行う支援システムで、運営9年目を迎えた。「集団託児」のほか、託児がないイベントでも参加者が個人的に託児を依頼できる「個別託児」を行い、利便性を高めている。頻繁に利用される団体や部署については、「団体登録制度」をご利用いただき、毎回の手続きを簡略化できるようにしている。

1月末時点で、今年度の「ならっこイベント」の依頼件数は26件、1月末時点で22件実施しており、のべ593名の子どもたちの託児を行った。



### サポーター養成講座

子育て支援システムを安全、安心に運営するために、信頼のおけるサポーターを学内外で確保し、その質を高めていくことが必須である。その目的で、今年度もサポーター養成講座を開催した。



今年度の「サポーター登録説明会」では、本システムでのサポーターとしてのあり方や支援の具体的な内容を丁寧に説明することとした。12回実施し、新たに13名が説明会終了後にサポーターとして登録した。

またサポーターとしての技能と知識を高めるための「ブラッシュアップ講座」として、下記の題目で5講座を開講した。

- ①乳幼児に対する講習（普通救命講習3）
- ②知れば子どもの見方が変わる?!  
乳幼児期の子どもへの関わり方
- ③今、子ども達に『あそび』が必要な深刻な理由
- ④子どもの急な体調不良への対応と嘔吐処理実習
- ⑤体験！保育の現場@奈良こども館

「ブラッシュアップ講座」は、毎年好評の認可外保育園での保育体験をはじめ、からだを動かすワークショップ・座学まで、ボランティアや子育て・孫育てに関心のある一般の方にも開かれており、今年度はお子様連れの参加者もおられた。



## ワークライフバランス支援相談室(旧母性支援相談室)

3名のワークライフバランス支援相談カウンセラー(産婦人科医師・助産師・社会福祉士)が、学生・教職員からの相談に対応している。

思春期から更年期までの心と体の健康相談、妊娠・出産・子育てに関する相談、介護に関する相談等、健やかにワークライフバランスを保てるように支援を行っている。

相談者の中には男性も含まれており、より多くの学生や教職員に気軽に利用していただけるように、2016年4月より相談室の名称をワークライフバランス支援相談室に変更した。

今年度開催した「ワークライフバランス支援ミニ講座」では、「介護問題・介護制度についての知識や役立つ情報の提供」「生涯にわたる女性の健康について性差医療の立場から理解を深める」「生命の誕生・いのちを育むということに意識を向ける」をテーマに参加者で共有する場を設けたところ、関心のある教員・職員・学生の皆様に参加して頂き好評を得た。参加者同士和やかな意見交換の場となった。



## 情報の発信

本学の子育て支援システムの紹介チラシ「奈良女子大学の子育て支援」を発行し学内に配布した。また今年度は「ならっこネット通信」(メールマガジン)4回、「ならっこニュース」(メールマガジン)を9回配信、サポーター向け冊子「サポーター通信」を1回、「ワークライフバランス支援相談室だより」を2回発行した。

## ならっこルーム(奈良女子大学託児支援室)

「ならっこルーム」は2008年に開設された託児設備であり、ならっこネットでの支援のほか、ならっこイベントでの託児や、子育て支援システム利用者の家族・子どもを連れて来学された方などが利用できる。今年度は1月現在で110件の予約があり、うち86件の利用があった。保育園に預けていない1歳未満の子ども利用や、子どもを室内で遊ばせながら一緒に過ごす利用者もあり、昨年より利用者も増え好調であった。



## 女性研究者ネットワーク

女性研究者ネットワークでは、女性研究者の研究力の更なる向上に資することを目的として、学内で主に女性教員を対象とした情報を整理して配信すると共に、大学内外からの女性教員にとって有益な情報を集約してメール配信している。2017年度より、情報提供を希望する大学院生へも配信している。

2018年度(1月末現在)は、ワークライフバランス支援相談室、子育て支援システム、教育研究支援員制度の利用案内、学内外の公募情報(研究スキルアップ経費他)、講演会案内等、27件の情報配信を行った。

## 研究活動支援事業(研究スキルアップ経費)

本事業は、2010年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」(2011年度より科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速事業」として実施)に採択され、5年間の採択期間終了後も引き続き、理工農系女性研究者の採用促進や、研究スキルアップをはじめとする研究者養成活動等の取組を進めている。また、2017年度からは、研究スキルアップ経費の支援対象を理工農系に加えて、医・保健分野へ範囲を拡大した。

### 2018年度研究活動支援事業の活動実績

#### ◆研究スキルアップ経費支援

学内の理・工・農・医・保健分野の女性研究者を対象に、国際会議・国内会議等の参加及び英語論文校閲等の経費を支援した。

#### 2018年度研究スキルアップ経費支援の利用状況

理学系研究者	農学系研究者	医・保健系研究者
6件	3件	5件

女性研究者の研究活動支援に関する問い合わせ先:

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/j-kaikaku/> e-mail [j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:j-kaikaku@cc.nara-wu.ac.jp)

## ダイバーシティ研究環境支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3344 URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/> e-mail [shien@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:shien@cc.nara-wu.ac.jp)

## キャリア開発支援本部

2016年度より一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会の会員になり、大学院生、博士研究員を対象とした研究インターンシップや産学協働イベント、自己分析セミナー、進路に関する相談等を実施し女性研究人材のキャリア形成支援を行い、研究分野における男女共同参画推進を目指しています。

### C-ENGINEの「研究インターンシップ」 9名をコーディネート

16の大学とリーディング企業40社によって構成される一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会(C-ENGINE)は「人の交流」「知の交流」を掲げ、研究インターンシップを推進している。オンラインシステムと、各大学に配置されたコーディネーターによる支援が特徴で、本学も2016年度から加入した。今年度も昨年同様、9名(7社)の研究インターンシップを実現することができた。

### 2017年度参加学生の指導教員にアンケートを実施

前年度にインターンシップに参加した学生の指導教員9名を対象に「認知度、教員の関与、学生への影響評価」などについて質問し、全員から回答を得た。

「学生への影響評価」については半数以上が「とても良い影響があった」と回答しており、コメントとして「研究により前向きになった」「専門分野の視野が広がった」「社会人としての責任を認識できた」などが挙げられた。

学年	専攻(コース)	研修テーマ
M2	数学科	データ分析技術の評価
M1	数物科学(物理)	画像認識を用いた入荷検品の自動化
M1	数物科学(数物連携)	画像認識を用いた入荷検品の自動化
M1	数物科学(物理)	紙の加工条件の検討とその評価方法の実施
D2	共生自然科学	水溶性 <sup>+</sup> IR-構造と洗浄力の相関
D2	複合現象科学	量子井戸型赤外センサ評価
M1	数物科学(数物連携)	連続アトラクタニューラルネットワークを用いた画像記憶
M1	化学生物環境学(生物)	開発品の細胞への影響評価
M1	数物科学(数学)	知的財産業務

### 学生と企業の交流会@奈良女

【日時/場所】2018年11月6日(火) 13:30~18:00 G棟 G101教室

【プログラム】 【参加企業】

1. 大学あいさつ
  2. C-ENGINEの説明
  3. インターンシップ報告
  4. 企業の事業等紹介
  5. ミニ・ワークショップ
  6. 懇親会
- ・京セラ株式会社
  - ・住友電気工業株式会社
  - ・住友林業株式会社
  - ・株式会社堀場製作所
  - ・三菱電機株式会社
  - ・株式会社リコー

C-ENGINEの会員企業6社(11名)と事務局にご協力いただき、大学院生と大学院進学予定の学生28名との交流会を実施した。今回は企業の女性研究者、技術者、社員の方の参加を促進し、9名の女性社員のご参加をいただいた。学生2名(共生自然科学専攻、数学専攻)によるインターンシップの報告、参加企業の事業やインターンシップの紹介を行った。

### ワークショップでは女性社員のみなさんと「ひとりで頑張らない女性活躍」を考えました

「本学ならではの企画を」と思い、企業で働く女性と女子学生の目線で女性活躍について考える機会を提供した。企業内における人材育成の研修内容を、女性社員のアドバイスを参考にして学生達が考えることで、自分が働くイメージを持ってもらうことを意図した。

【感想】

- ・学生さんがどういう視点でインターンシップに取り組んでいるかが具体的にわかり、今後の情報の出し方などの参考になりました。(企業)
- ・いつもの交流会では学生さんの本音が聞こえてこなかったのですが、この取り組みは学生さんの「今」の考え方を聞くことができ面白かったです。(企業)
- ・働く女性の生の声を聞いたことが本当によかったです。自分の働く姿を少し想像できた気がします。(B4)
- ・入社してからの問題、課題に気づけて良かったです。(M1)



## セミナーの開催

今年度は、講師を学内関係者に向けて推薦公募し、以下のセミナーを実施した。両セミナーとも本学卒業生であった。ネットワークを活用した講師の選定により、教職員が学生のキャリア開発支援について考える機会の提供にもなったと思われる。

### キャリアセミナー

#### 「社会に出ることを見据えた研究生活を考える」

－あの「マイナビ」で働く奈良女OGが語る、今知っておきたい仕事の世界－

【日時・場所】 2018年12月11日(火) 16:30～18:00 S128教室  
【講師】 天野 佑美さん 株式会社マイナビ 就職情報事業本部

【感想】 社会の流れや職種について知識が全然ないことを改めて実感しました。この短時間で多くの情報に触れさせていただき、本当に感謝でいっぱいです。また、社会人基礎力の中の「考え抜く力」についてもお答えいただけてうれしかったです。

### キャリアセミナー

#### －女子学生・大学院生のためのマネープラン－ 「女性のキャリアとライフプランをお金の話から考える」

【日時・場所】 2019年1月22日(火) 16:30～18:00 A201教室  
【講師】 福一 由紀さん マネーラボ関西代表  
武庫川女子大学 非常勤講師

【感想】 今、学生のうちに知っておくべきことを学ぶことができて良かった。学部生のときに奨学金を借りていたので、必ず返そうと改めて思いました。今まで、お金や保険制度は難しそうだから避けてきたのですが今日、しっかりと意識を改めることができて良い機会になりました。

社会に出ることを見据えた研究生活を考える

あの「マイナビ」で働く奈良女OGが語る、今知っておきたい仕事の世界

日時 2018年12月11日(火) 16:30～18:00  
場所 S128教室 5棟 1階  
講師 天野 佑美さん 株式会社マイナビ 就職情報事業本部

女性のキャリアとライフプランをお金の話から考える

日時 2019年1月22日(火) 16:30～18:00  
場所 A201教室 A棟 2階  
講師 福一 由紀さん マネーラボ関西代表

## キャリア形成のための院生自主企画



### 「社会で活用される確率統計とは」～医療統計のスペシャリストに学ぶ～

【日時・場所】 2019年1月11日(金) 16:30～18:00 C棟4階 大講義室  
【講師】 嘉田 晃子 氏 (名古屋医療センター臨床研究センター臨床研究企画管理部 生物統計研究室室長)

数学専攻2回生2名と教物科学専攻数学コース1回生2名のグループが、本学数学科のOGでもある講師に依頼し、自分たちの学びと社会のつながりについて学ぶセミナーを企画、実施した。セミナー当日は他学科の学生を含む約30名の学生や教員等の参加があり盛況であった。企画した院生たちの自信につながり、主体性をさらに高めるものと期待される。

## 企業見学会等イベント参加支援 (交通費を補助)

- C-ENGINE 学生と企業の交流会
  - 4/26 大阪府立大学 8名
  - 5/11 大阪大学 8名
  - 5/21 大阪大学 10名
- C-ENGINE 企業見学会
  - 10/11 日東電工 6名
  - 10/31 京セラ 4名
  - 11/12 島津製作所 5名
- その他の参加支援したイベント
  - 6/13 グローバル企業フェア@大阪大学 2名
  - 11/19 産業技術総合研究所 (つくば) 女性研究者との懇談会 1名
  - 1/12 理系学生模擬GD 2名
  - 1/18 奈良先端大JOBFESTA 1名

## 博士キャリア開発支援制度 (DCD支援制度)

「DCD支援制度」は博士後期課程学生、博士研究員の就職活動、学会発表の際の交通費補助により博士人材のキャリア開発支援をするものである。

単なる経済支援で終わらずに、就職活動、書類作成や面接対策などの継続的な相談につなげ、対象者のニーズに合わせた支援を心がけている。

- DCD就活支援(面接)
  - ・富士通総研 東京
  - ・日本学術振興会 東京
  - ・資生堂ジャパン 東京
  - ・基礎生物学研究所 愛知
- DCD学会支援(発表)
  - ・第70回 日本家政学会 東京 2名
  - ・2018年度 日本建築学会大会(東北) 宮城
  - ・第69回 コロイド及び界面化学討論会 茨城
  - ・日本植物形態学会、日本植物学会 広島

## キャリア開発支援本部の活動についての問い合わせ先

Tel/Fax 0742-20-3572 URL <http://cdpd.nara-wu.ac.jp> e-mail [career-k@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:career-k@cc.nara-wu.ac.jp)

## 男女共同参画活動のアピールー自治体等との連携への取り組みー

### ◆日経ウーマノミクス・プロジェクトに協力参加

・2018年6月7日（木）に奈良女子大学S棟ラウンジで「女性研究者キャリアカフェ」が開催された。本学卒業生の尾田友香氏（さらや株式会社バイオケミカル研究所・MDRグループ次長）の講演があり、講演後尾田氏を囲んで懇親会があり、さらや株式会社社員、本学教員、学生が参加し活発な情報交換を行った。  
 ・2018年8月31日（金）に大阪国際会議場3階イベントホールにて、日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」が開催され、パネルディスカッションⅡ「女性研究リーダー育成と課題」で春本晃江副機構長が講演した。また協力参加・パネル展示を行った。

### ◆奈良県・なら男女共同参画週間イベントに協力参加

2018年6月29日（金）～7月1日（日）になら男女共同参画週間イベント2018「多様さをみとめあつて気づき、築く参画社会」が奈良県女性センターに於いて開催され、協力参加・パネル展示を行った。

### ◆全国ダイバーシティネットワーク組織・大阪大学シンポジウムに協力参加

2019年2月7日（木）大阪大学会館講堂に於いて、大阪大学シンポジウム「挑戦する女性が拓くダイバーシティ時代へ」が開催され、村木厚子氏（大阪大学男女協働推進センター招へい教授）の基調講演があった。本学からは三成美保副学長が講演された。講演のあとで、「地域から全国へ 地域ブロックごとの行動目標」が発表された。

## シンポジウム「奈良女子大学の女性研究者支援 ～ダイバーシティ推進の成果が築く未来～」開催

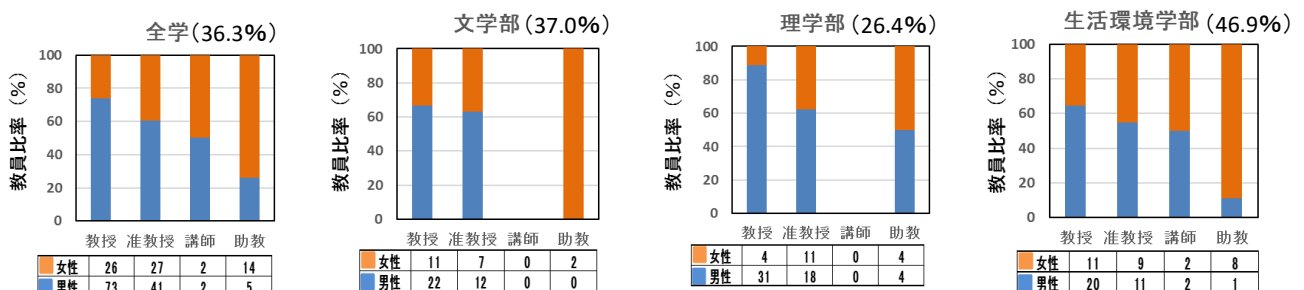
2019年3月1日（金）奈良女子大学記念館に於いて、本学男女共同参画推進機構主催のシンポジウム「奈良女子大学の女性研究者支援 ～ダイバーシティ推進の成果が築く未来～」が開催された。今岡春樹学長の挨拶があり、基調講演「女性研究者支援・養成事業の実績と今後の課題」（山村康子氏 国立研究開発機構法人科学技術振興機構（JST）プログラム主管）が行われた。休憩の後、本学男女共同参画推進機構・機構長 藤原素子氏、推進本部長 安田恵子氏、ダイバーシティ研究環境支援本部長・副機構長 春本晃江氏およびキャリア開発支援本部特任教授河原郁恵氏から、各本部におけるこれまでの女性研究者支援の成果と今後の課題について講演があった。なお、このシンポジウムは奈良女子大学創立110周年記念イベントとして開催された。

## 奈良女子大学教員に占める女性教員の割合

本学の教員数は、2019年1月現在で190名。そのうち女性教員は69名（36.3%）である。2005年から13年間に渡る男女共同参画推進機構（男女共同参画推進室としてスタート）のリードによる女性研究者への支援体制整備とともに、女性教員比率は徐々に上昇してきた。学部別に見ると、文学部37.0%、理学部26.4%、生活環境学部46.9%となっている。職階別による女性教員比率は、学部によって事情が異なるが、概して上位職階は低く、下位職階にいくほど高くなる傾向にあり、やや改善がみられるものの、この傾向は13年前と変化していない。2017年に本学は「女子活躍推進法に基づく行動計画」において、女性教員比率の目標値を38.0%と設定しており、今後なお一層努力する必要があると考える。

## 奈良女子大学教員の男女別人数（2019年1月20日現在）

### 大学全体の女性教員比率36.3%



\* 教員は学部にも所属する教授・准教授・講師・助教とした。\* \* 図中括弧内の数字は各学部の女性教員比率を示す。

編集・発行：奈良女子大学男女共同参画推進機構

連絡先：奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742-20-3204 Fax 0742-20-3205

URL <http://gepo.nara-wu.ac.jp/>



男女共同参画推進機構

ORGANIZATION FOR THE PROMOTION OF GENDER EQUALITY

国立大学法人 奈良女子大学